

平成27年度のまとめ

私たち「郷土岡上の歴史・文化継承委員会」は3年目のまとめ作業にあたって、つぎのような確認をおこないました。

第一に、岡上の中近世期から近現代に至る歴史を通じて受け継がれ、築かれてきた地区の特質を未来への継承資料として作成し記録したい。湧水と谷戸地形が育んだ「岡上の原風景」はどうしたら描けるのだろうか。

第二に、岡上の今日までの歩みを、明治期以降に刊行されてきた数々の地図を活用して、出来るだけわかりやすい「歴史地図」のかたちで再整理したい。江戸時代の文書史料が豊富に保存されてきている岡上なのに、その時代に作成されていたはずの村絵図が見当たらない。残念に思う一方、驚くほど精密な明治20年代の「字限図」など手掛かりになる地図はあるのです。

第三に、岡上の暮らしの歴史そのものとも言うべき農業、生活インフラとしての鶴見川の架橋と水動力活用の水車設置、さらに村落の過去への入り口としての地名の推移など、最終年の中であらためて整理し記録しておきたい。

さて、年度当初の私たちの希望を含んだ確認はどのように形となったのだろうか。次ページ以降の掲載内容について概観してみましょう。

1 明治20年代の岡上村が再現されました

残され保存されてきた明治20年代の岡上村「^{あざぎりす}字限図」が合成され、土地利用別に色分けされました(25頁)。北側に鶴見川が流れ、この沿岸部の沖積低地を除くと他はほとんどが丘陵地。南北方向に4本の谷戸が刻まれ、それぞれの谷戸の奥まで水田が営まれています。丘陵は畑地と雑木山。戸数60戸ほど、5つのお宮と1つのお寺。

江戸時代以降変わらない光景は、ほぼこのまま昭和30年代前半まで続くのです。

2 地形図と航空写真で過去が蘇ります

26頁からは、見開きで3対、それぞれほぼ同時期の地図と写真です。昭和63年地形図と平成元年の航空写真の見開きは、岡上史上に大変化が生じ、今の岡上に近づいている様子が見られます。岡上小学校開校、和光大学の設立、大規模宅地開発、営農団地造営、世帯数・人口もピークに向かっている時期です。

3 地名、農業、橋と水車

ここでは、それぞれの分野で歴史と現在に光を当てています。消えた地名や水車設置時期の解明などで研究者の助力がありましたし、なによりも地元のお年寄りの証言や聞き取り協力が大きかったのです。この点は、岡上の歴史・文化遺産を掘り下げ、積み重ねていく営みの今後においても大切にされていくべきであろうと思います。

明治 20 年代の岡上の字限図

明治 20 年代の岡上の 15 の字を 12 分冊にした大型で彩色された字限図^{あざきりず} (※1)。岡上郷土誌会が資料収集にあたって、海老沢勲氏から提供されたものである。

各字ごとに、地番、田、畑、山林、萱野、芝地、社寺、宅地、戸主名、川、堀、橋、道、墓地などが克明に記され、テーマごとに彩色されている。当時の岡上の字ごとの様相が分かり、郷土史探索の手引きとなる貴重な資料である。

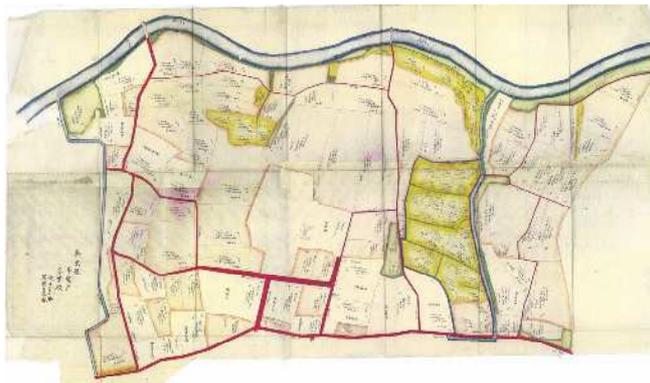
これら岡上の字限図の調査者、調査年月日、制作者は不明である。また図面には東西南北は記されていないが、この紙面ではできるだけ北向きを上にし、列挙する。

第壹号
字川内



旧真光寺川と鶴見川の間に位置している。天正 19 年の水帳で上田 (出来の良い田んぼ) が多く記された地域と思われるが、その後、元禄の大水で二度と田んぼに復されなかったと記されているように、地域のほとんどが畑地である。(※2)

東光院が位置し、道幅壱丈四尺という最も広い道がある。開戸稲荷、宝殿稲荷の境内地が明記されている (※3)。川には 2 本 (本村橋、岡上橋) の橋が架けられている。戸数 19 軒。

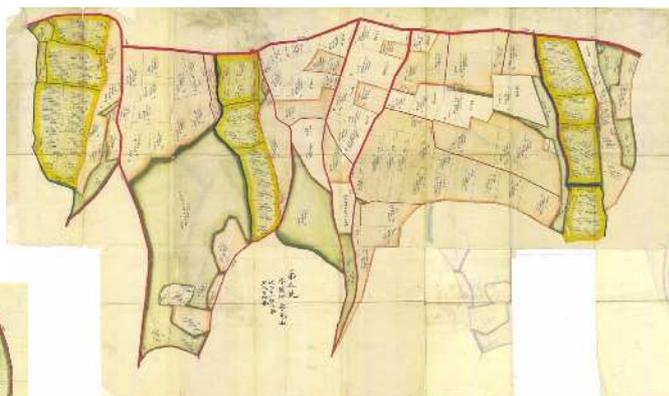


第貳號
字開戸・字寶殿

(参照) 現在の
岡上地区の字図

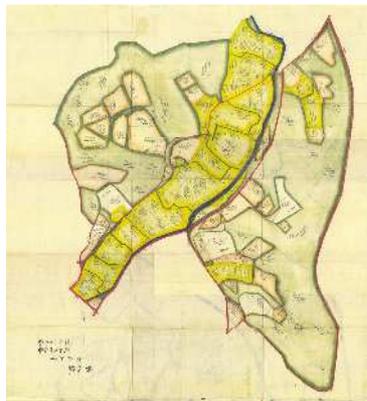


第八號 字自正寺



第五號
字栗畑・字丸山

新編武蔵風土記では「自性寺は古き寺なりと見ゆれど…一つの頃の廃せしと伝えず」と記す。字自正寺の谷戸の右岸を流れる堀は字丸山との境で左岸に屈曲する。



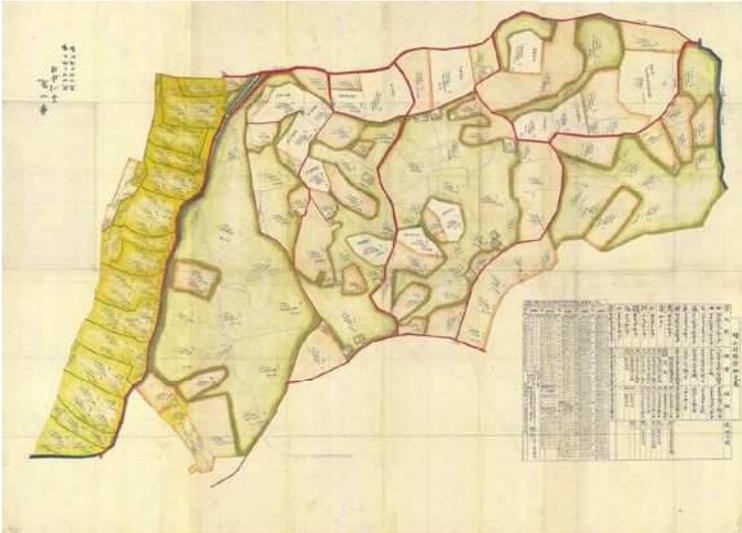
岡上を東西に貫く道 (幅八尺、七尺) の南に位置し三輪村と接している。阿部原という地名が残されている。現在、岡上神社が位置している諏訪社 (※3) が記され、また岡上小学校や丸山のある所は萱場と記されている。戸主名が記されているのは 13 軒。

鶴見川が大きく蛇行している。南多摩郡大蔵村や能ヶ谷村地所と記された場所もある。川幅は五間と記載。川には橋が記されていないが、堀に橋が記載されている。

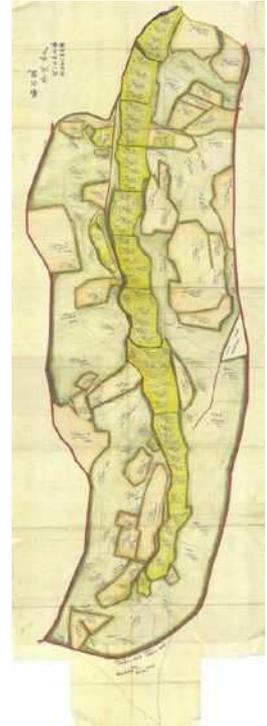


第参号 字関
字川井田下

第四号 字川井田 付岡上村総計細見表



岡上村の鎮守の剣神社は東向きの鳥居と本殿の絵が描かれている(※1)。字丸山との境の堀の堀幅は四尺、五尺。田んぼの方の堀には橋が架けられている。戸数は13軒。



第六号 字池ノ谷戸

第拾号 字小塚



三輪村との堺の道幅は八尺。その道沿いに日枝社の記載。南端に火葬場や牛馬捨場。

現在、和光大学と西町会のある所。三又という地名が残され、今もお田んぼが耕作されている。

第拾壹号 字杵山下

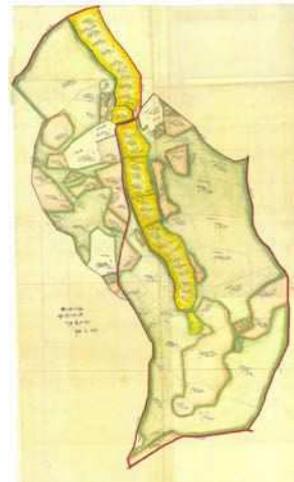


第九号 字梨子ノ木



現在の梨子ノ木特別緑地保全地区の辺りは萱野と山林である。

第七号 字天神谷戸



第拾貳号 字杵山



※1 字限図とは、明治6(1873)年の地租改正に伴い明治政府によって字単位で作成された地図。江戸期までと違い私的土地所有権の確立の必要性から作成。土地宝典、地籍図ともいう。
 ※2 平成26年度講座記録 第4回(P15)、第5回(P18)参照
 ※3 平成25年度講座記録 第2回(P5)、平成26年度講座記録第5回(P15)参照

明治 20 年代の岡上の字図、地番、地目別面積



前頁の 12 枚の字限図の 15 の字は、次頁のように合成され岡上村全村のものにまとめられた。上記図はそれに字名と字界を入れたものである。上記右図は現在の字図。字川井田下が字川井田に統合されている。また表記も池ノ谷戸→池谷戸に梨子ノ木→梨子木に杵山下→杉山下、杵山→杉山となった。

◇12 枚の字限図の地番は以下のように振られている。

- 第壹號 字川内 (コウチ) 地番 1～123
- 第貳號 字開戸 (カイト)・字寶殿 (ハウデン) 地番 124～270
- 第参號 字関 (セキ)・字川井田下 (カワイダシタ) 地番 271～434
- 第四號 字川井田 (カワイダ) 地番 435～627
- 第五號 字栗畑 (クリハタ)・字丸山 (マルヤマ) 地番 628～810
- 第六號 字池谷ノ戸 (イケノヤト) 地番 811～965
- 第七號 字天神谷戸 (テンジンヤト) 地番 966～1068
- 第八號 字自正寺 (ジショージ) 地番 1069～1209
- 第九號 字梨子ノ木 (ナシノキ) 地番 1210～1368
- 第拾號 字小塚 (コヅカ) 地番 1369～1440
- 第拾壹號 字杵山下 (スギヤマシタ) 地番 1441～1545
- 第拾貳號 字杵山 (スギヤマ) 地番 1546～1615

■字川井田に付されている「岡上村総計細見表」による地目別面積一覧表

地目	反別	m ²	比率
田	16 町 3 反 6 畝 6 歩	162,268	14.99
畑	43 町 2 反 8 畝 1 歩	429,226	39.66
宅	6 町 7 反 7 畝 26 歩	67,226	6.20
山林	36 町 9 反 7 畝 2 歩	366,651	33.88
原野	4 町 2 反 2 畝 歩	41,851	3.87
A 計	107 町 6 反 1 畝 7 歩	1,067,222	98.61

地目	反別	m ²	比率
墓地	2 反 15 歩	2,033	0.18
焼場	10 歩	33	0.00
B 計	2 反 25 歩	2,066	0.18
寺境内	6 反 4 畝 9 歩	6,377	0.59
牛馬捨場	2 反 2 畝 歩	2,182	0.20
社寺	4 反 4 畝 3 歩	4,374	0.40
C 計	1 町 3 反 12 歩	12,933	1.19

A+B+C 合計	109 町 1 反 2 畝 14 歩	1,082,221 m ²
----------	--------------------	--------------------------

明治 20 年代の岡上村の彩色地図（字限図を合成した地図）

字限図 12 分冊を合わせて、岡上村として一つにしたもの。（川崎市地名資料室による CD-ROM のデータをもとに、岡上に親しむ会（郷土誌会）の発案により、和光大学の協力を得て、岡上分館との協働で 2010 年に作成。）



この地図からは明治 20 年代の頃の岡上の人々の暮らしが立ち上がって来る。改修前の鶴見川が東西に流れ、4 本の谷戸では、湧き出る清水や天水が堀となり田んぼを潤し鶴見川へと注いでいる。道は幅 3 尺の細道から一丈二尺の太いものまで 1 本 1 本が描かれている。行き来する村人の姿が見えてくるようである。家々の位置も明記されている。そして谷戸の最奥部から始まる段々の谷戸田、周りには畑、萱野や山林が続いている。ここには中世、江戸と変わらず続いて来たであろう岡上村の風景がある。

今後は 12 枚の字限図ごとに聞き取り調査を進め、字の昔と今を記録すること、そしてこの合成された地図に今に残されて来た地名を記して行くことが期待される。

明治 20 年代の岡上の土地利用図

字限図の彩色に近い色で塗り分け、明治 20 年代の岡上の土地利用図を作成した。



 田んぼ	 川、堀	 社寺
 畑	 道	 墓地など
 山林, 萱野, 芝地	 宅地	

「農産物の生産量」からも田・畑・山の様子がうかがわれる。

神奈川県都筑郡地誌（明治 21 年）より

岡上村の生産量

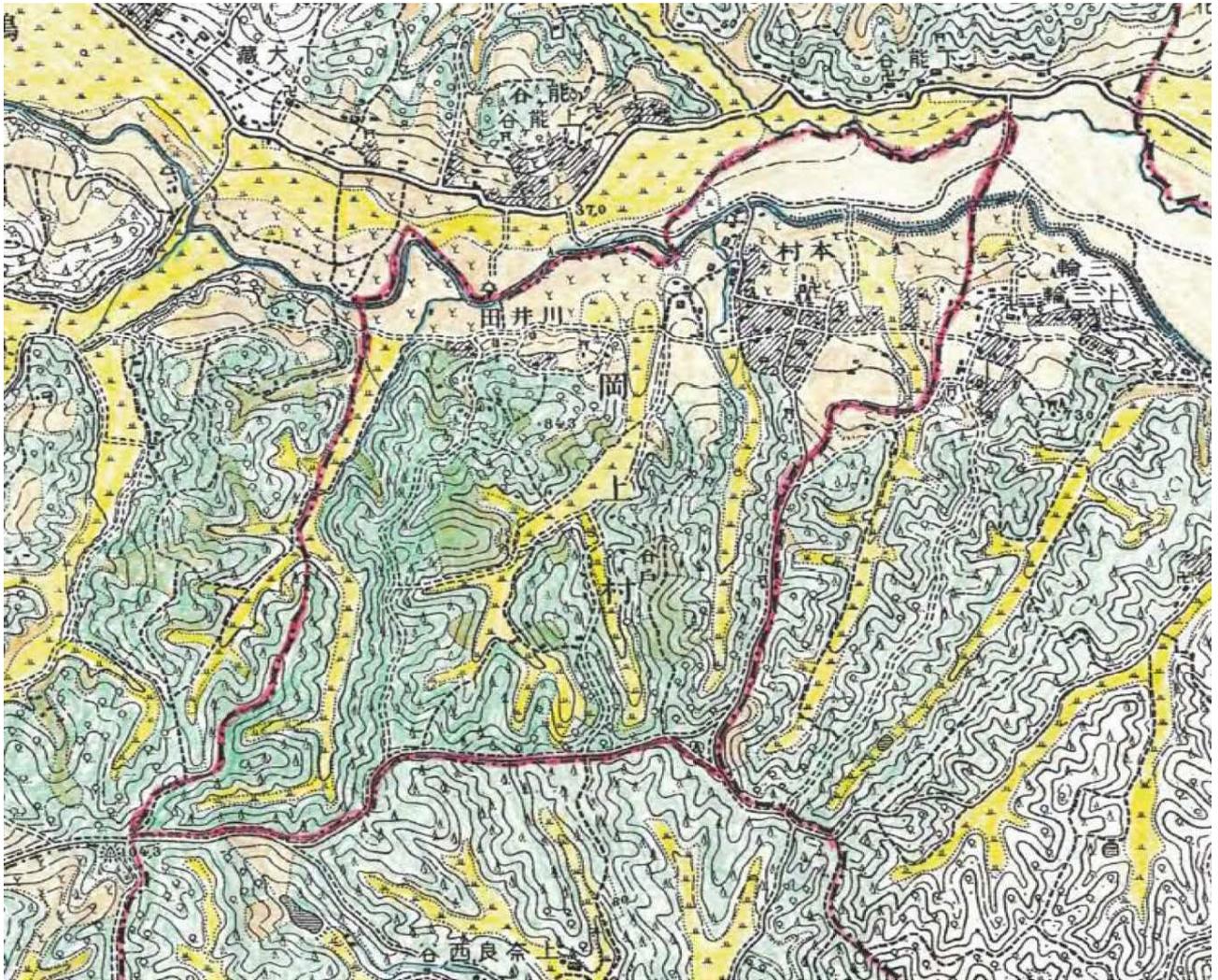
米 160 石、餅米 40 石、大麦 200 石、小麦 62 石、粟 55 石、稗 18 石、蕎麦 15.3 石、大豆 45 石、柿 1,500 駄、炭 1,000 貫、生糸 75 貫、製茶 25 貫

なんとといっても柿（禅寺丸柿）は多く黒川村の 5 倍 大麦は栗木村の 4 倍
炭は比較的少ない 生糸は片平村の 3 倍の生産量であった。

P20, 21, 22, 23, 24 の参考資料

「郷土岡上」、昭和 5 年の「柿生・岡上組合村 地番反別入地図」「川崎の地名」など

明治39年地形図



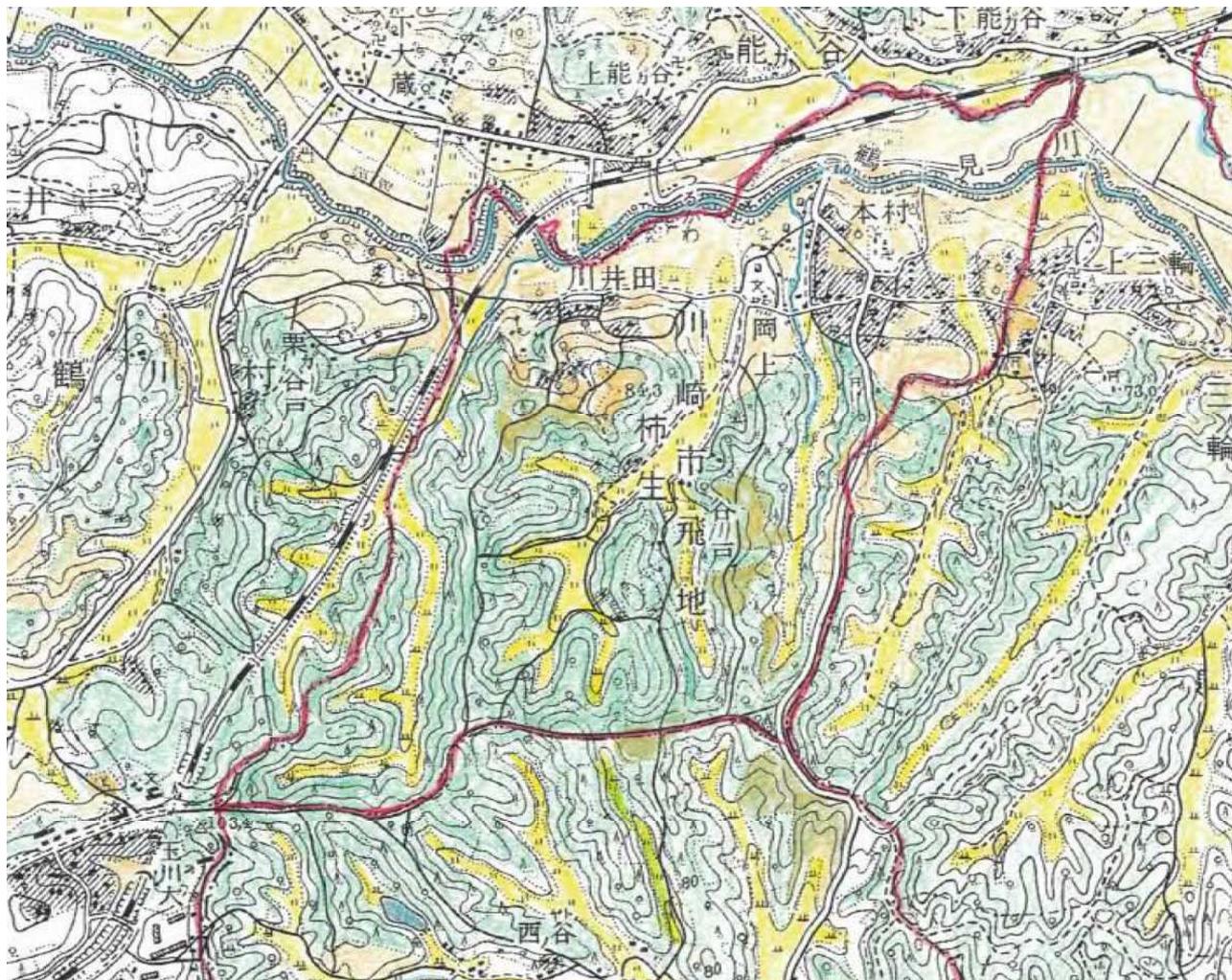
(出典：国土地理院、大日本帝国陸地測量部作成、2万正式図、S1957：原町田、明治39年測量、明治42年3月30日発行)

明治時代は当然のことながら小田急線は敷設されておらず、移動は徒歩・自転車に限られていた。近隣の村に行くのも半日かかり・1日かかりであったと言われている。

土地利用の観点からは、この地形図で見られるように、4つの谷戸に奥深くまで水田が広がっている。また鶴見川沿岸の平地では桑を中心とした作物が栽培されていた様子が分かる。山林については広葉樹と針葉樹が入り混じって生えていたことは、現在の緑地の様子と余り変化がないようだ。

鶴見川では2ヶ所に水車を確認することができる。

昭和29年地形図



(出典：国土地理院、地理調査所作成、昭和29年測量、昭和32年2月28日発行、
2.5万地形図、76-11-2-5：原町田)

昭和29年になると、明治の地図で畑の多くが桑畑であったのに対し、桑畑の表示がなくなって他の作物に転換されていったことが見て取れる。昭和2年に小田急線が開通しても、4つの谷戸における稲作は引き続き継続されている。

真光寺川（旧矢崎川）は、鶴見川へ直結されず麻生川経由で鶴見川に流れていたことも見て取れる。

この段階では岡上の住宅件数は、明治・大正の頃と比べても増加はしていない。この直後の昭和30年代前半から、杉山下および杉山（今の岡上西町会がある地域）に開発が始まって住居が増加を始めることとなる。

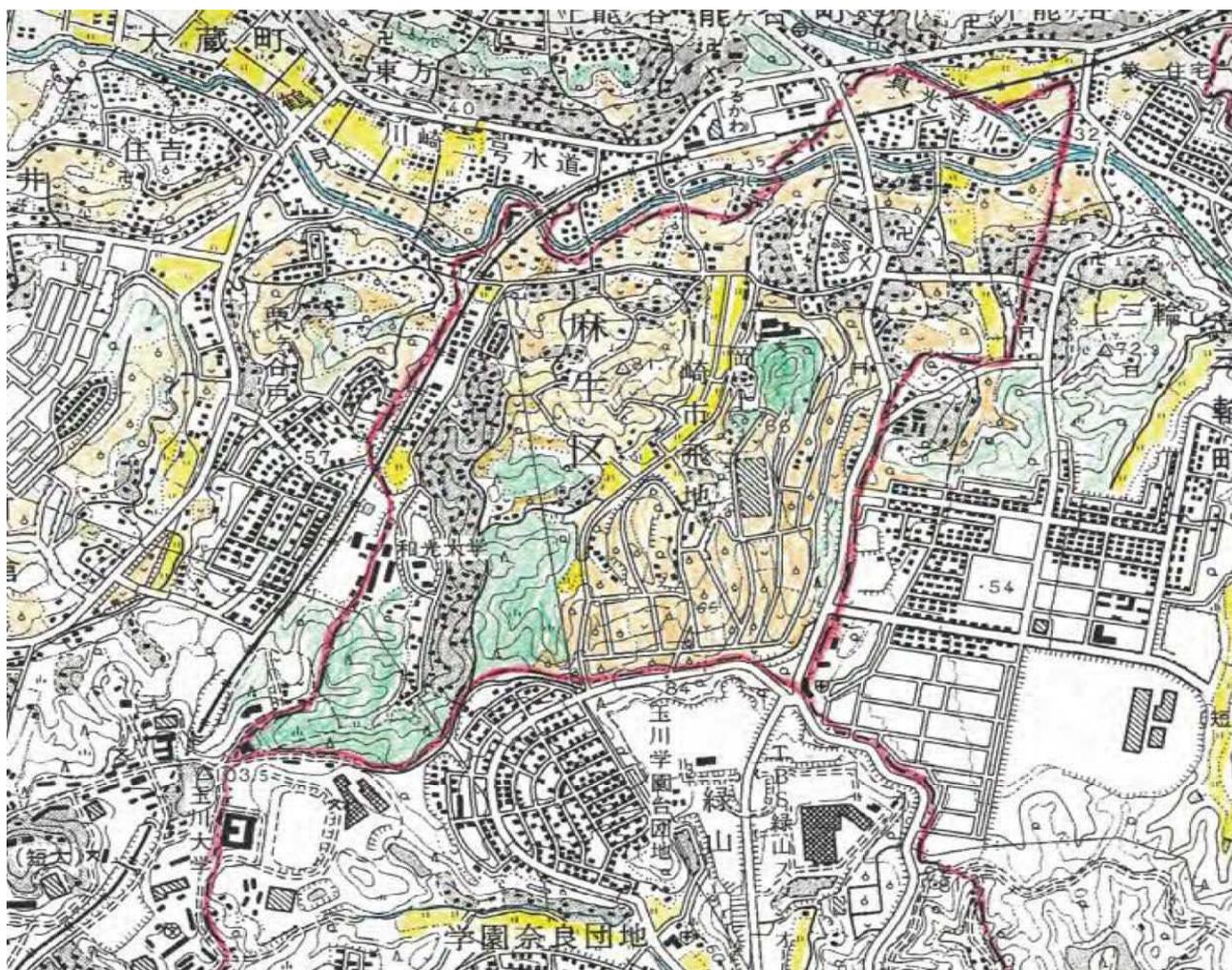
昭和 22 年航空写真（米軍撮影）



（出典：国土地理院、USA M876-66）

この航空写真は、昭和 22 年 7 月 24 日に米軍により撮影されたもので、田植えの後の水田の姿が 4 つの谷戸に沿ってハッキリと確認することができる。水田は黒く写っているが、畑は逆に白く写っているのが対照的である。

昭和63年地形図



(出典：国土地理院、昭和63年測量、平成元年9月1日発行、2.5万地形図、76-11-2-14：原町田)

この頃になると、大規模な宅地開発が始まって近隣に大きな住宅やマンションが増えて、都市化が進んでいることがハッキリと見ることができる（三輪緑山や玉川学園台地等）。

水田も2つの谷戸に少々となり、逆に営農団地造成による畑地が増加したことが見て取れる。

河川については、鶴見川の改修は始まってはいるものの完成はしていない。真光寺川（旧矢崎川）は鶴見川の方へ延伸改修し、開戸で鶴見川に合流している。

山林が相当減ってきているのが判断できる。

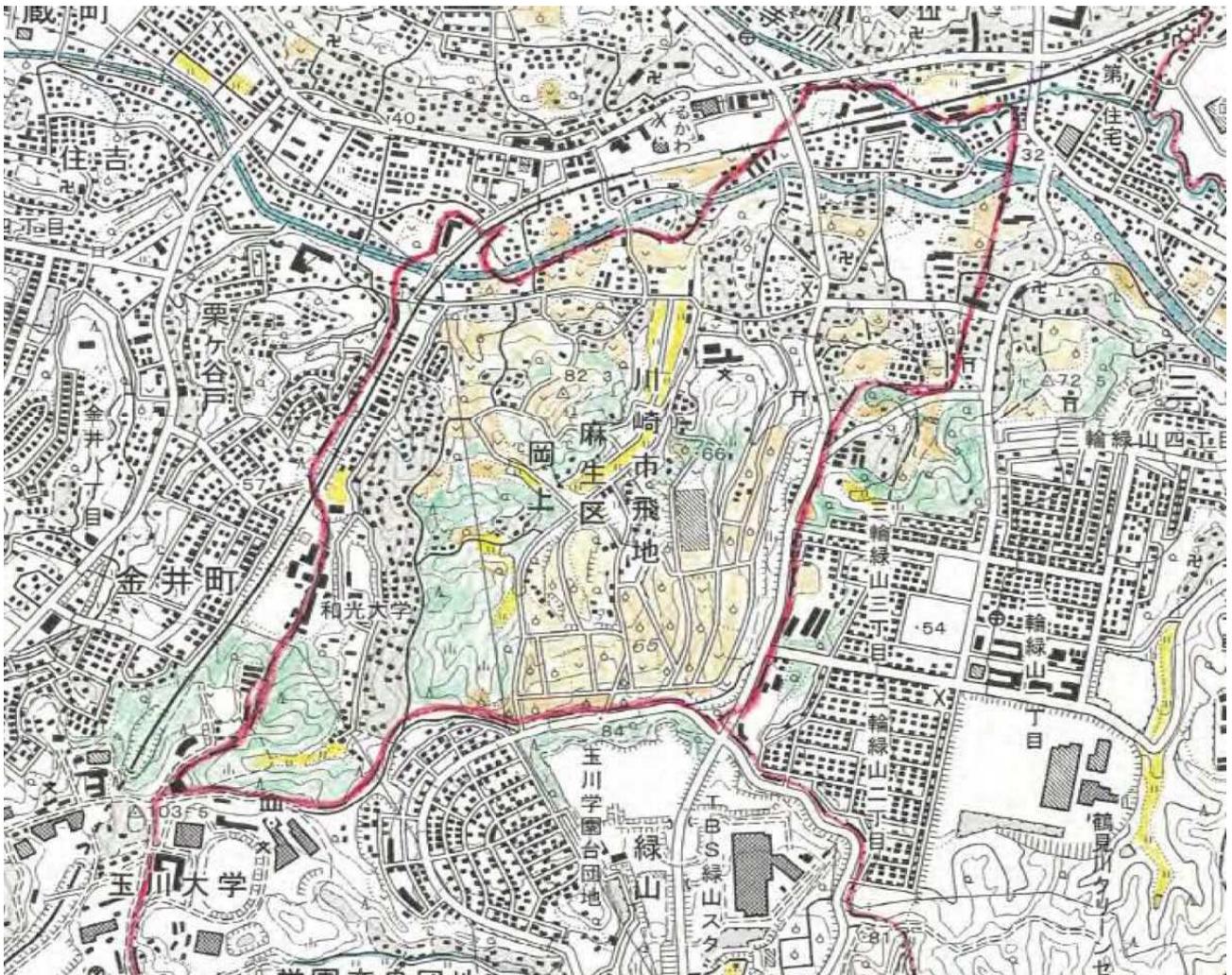
平成元年航空写真（国土地理院）



（出典：国土地理院、CKI891-C24B 16）

この航空写真は、平成元年 10 月 20 日に撮影されたもので、営農団地の造成後の姿がハッキリと映し出されている。また鶴見川の河川改修が進んでいるところもハッキリと見ることができる（鶴見川と小田急線が交差する付近）。

平成19年地形図



(出典：国土地理院、平成19年測量、平成20年6月1日発行、2.5万地形図、76-11-2-17：原町田)

最新の地形図では、鶴見川の改修が終わりほぼ直線的な流路となっている。

大規模開発された近隣の住宅地は、ほとんどのところで住宅建設も終わって、現在の状況を表している。

営農団地内では柿を中心とした果物栽培が進んでいることが判断できる。

住宅も大分増え、約3,000世帯・7,000人の人々が暮らす大きな町となっている。

右の表は岡上の土地利用の状況を表したものであるが、明治20年代の土地利用から比較すると大きく変化したことが見て取れる。

(出典：平成23年 川崎市「都市計画基礎調査土地利用分類面積」)

種別	面積(ha)	比率
水田	2.3	1.60%
畑	36.2	25.14%
山林	26.4	18.33%
河川	5.6	3.89%
住宅地	36.6	25.42%
商業地等	3.5	2.43%
公共用地	0.5	0.35%
空地	6.0	4.17%
文教・厚生用地	10.1	7.01%
道路	15.6	10.83%
鉄道用地	1.2	0.83%
合計	144.0	100.00%

平成20年航空写真（国土地理院）



（出典：国土地理院、CKI20084-C3B 12）

この航空写真は、平成20年5月6日に撮影されたもので、鶴見川の河川改修も終わり、ほぼ現在の岡上の状況を表している。6ヶ所ある特別緑地保全地区等の緑もハッキリと見ることができる。

岡上の地名

岡上に残されている最古の地名(小字名^{こあざめい})は戦国時代末期の検地帳に記録されている。その検地は天正 19(1591)年 10月 9日から 14日までの 6日間実施され、各小字の田畑ごとに面積と等級、名請人名(所有者名)及び耕作者名などが記載された。

この検地帳段階の小字数は 30 余あったが、これらのうち現在まで継承されている小字名は半数にも満たない。消えてしまった小字のうち、その場所を特定できるものがあれば、推測はできても特定できないものもある。何らかの理由で地名統合がおこなわれ、村落の中での記憶継承が途絶えてしまっている。

この項では天正 19 年段階の各小字を検地月日順にあげ、現在まで継承されている(○印)、消えてしまったがその場所を特定できる(△印)、消えてしまいかつその場所を特定できない(×印)の 3 つにわけて紹介する。なお、本項は池上裕子先生の論文「天正 19 年都筑郡岡上村検地帳を読む(1)」(都筑・橘樹研究会編集発行『都筑・橘樹地域史研究』2012 年 9 月所収)の内容に教えを受けて作成した。

【戦国時代末期の岡上村の地名】

月日	小字名	印	田畑の特徴、場所の推定など
10月 9日	せき下	△	鶴見川北側か。
	河内	○	後の字川内と同じで、鶴見川北側。
	藤之木	△	真光寺川の藤野木橋近辺か。堰免として年貢免除。
	きりの木	×	特定できず。
	窪田	×	特定できず。
	高田	×	特定できず。
	中まち	×	特定できず。名主等への給免田(年貢免除)あり。
10月 10日	くりの木はた	○	後の字名「栗畑」のうち。江戸時代の名主梶家あり。
	<u>宝殿※1</u>	○	いなり免(宝殿稻荷を祀るための免畑)あり。
	南之前	×	宝殿から池之谷に至る田のあるところか。
	池之谷	○	集落はなく、分付主(地主)は他所に住んでいた。
	なしの木谷	○	この年に開発地登録された「当おき」地あり。
	天神谷	○	谷の名は天神を祀っていたことに由来。天神免あり。
	小塚谷	○	後の字小塚の辺り。
10月 11日	南まへ	×	前日の南之前と同じ地区か。
	せいのとう	△	「せいの堂」と言われ、現岡上小学校の辺りか。
	宮之下	△	旧剣神社の下という意味か。
	寺性寺谷	○	谷の名は自性寺という寺の名前に由来する。
	山下	△	丸山の下という意味か。
	いちが窪	×	宮免あり。
	せきは	×	堰場かと思われる。

10/12	宮之下	△	前述のとおり。
10月 13日	河井田※2 せきのまへ	○ ×	今は川井田と書く。谷戸田は字杉山下・字杉山まで続く。 特定できず。
10月 14日	かいと 新田 泥田、てい田 くほ くほ田 せき 大むらはた 三輪境	○ △ △ △ △ × × ×	開戸はもと垣内だったか。屋号「クラヤシキ」の家あり。 シンダと読む。三輪村シンダヤトの続きの地と思われる。 デイダと呼び、新田近くと思われる。 新田から泥田へ移る辺りか。屋号「クボ」の家あり。 同上。 特定できず。 特定できず。 特定できず。

※1 『神奈川県史』資料編6(1973年)、『川崎市史』資料2(1989年)とも宝殿が宝部と誤読されている。

※2 上記と同様、『神奈川県史』、『川崎市史』とも河井田があみ田と誤読されている。

【通称地名・俗称】主に岡上郷土誌会『郷土岡上』に掲載のもの。()内は字などの場所。

本村(宝殿) 精進場(鶴見川三輪との境) 半鐘の坂(丸山) 富士塚(池の谷) ヘイミチバ(池の谷) 阿部っパラ(栗畑) サクラ堀・サカサ堀(川内) 矢崎(川内) 五反田(川井田) 宮の下の滝(川井田) メエダ(川井田) セイカチバタケ(川井田) センマノヤシキ(川井田) オンジョネ坂(川井田) ヨド(鶴川ハイツの辺り) 稲荷山(自性寺・小塚) アカマツ(自性寺) ケンシャ松(梨の木) 女郎の森(梨の木) 山伏谷(天神谷) 天神峰(天神谷) 三つ又(杉山下) ジゴベイ坂(杉山下) オウサカ山(杉山下) オニノ窪・オギノ窪(杉山) オイセ山(杉山) 天狗松(杉山) 境塚(杉山)

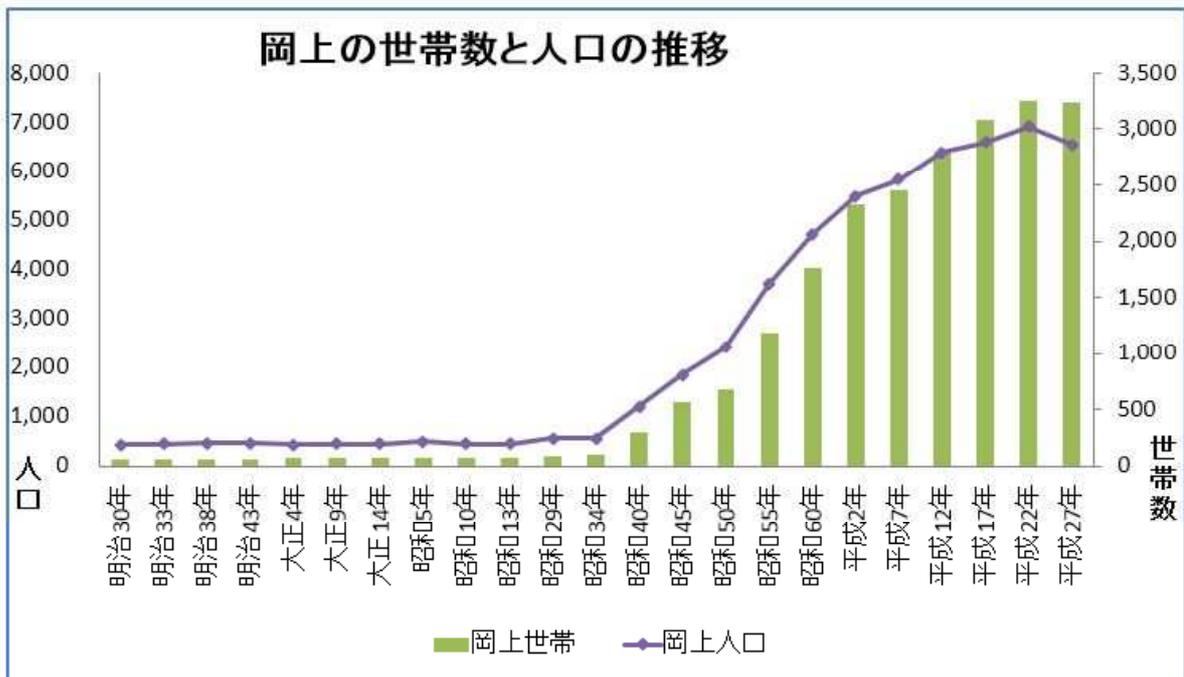
ちよっと一服 通称地名「セイカチバタケ(川井田)」にまつわる小噺ひとつ

岡上郷土誌会発行の『郷土岡上』の中にこの地名が載っていて、「せっかちのなまり訛か」とのコメントがついているのですが、このコメントがややせっかちでした。訛っていた箇所は「セ」で、もとは「サ」だったようです。すなわち「サイカチ」という樹木が植わっていた畑地なのでそう呼ぶようになったらしい(日本地名研究所の金子欣三先生のご指摘がありました)。

ところで、サイカチは日本固有のマメ科落葉高木です。秋には長さ20・30cmの曲がった豆をたくさんつけますが、この豆のサヤ・実がサポニンを含むので、石鹼が庶民生活に広がるまではムクロジの果皮と同じように洗剤に使われてきました。

ある日の岡上郷土誌会例会のお茶タイム。会で最高齢のOさん曰く。「そう言えば、子どもの頃、“サイカチ捕りに行ってくる”とよく遊びに出掛けたなあ」と。周りの会員、にわかには飲み込めません。調べたら、サイカチの幹はクヌギやコナラのように樹液を出すので、カブト虫やクワガタ虫が集まるのです。ここから、カブト虫をサイカチ虫と呼ぶ地域があることが解ってきました。ちなみにOさんは少年期を狛江、喜多見辺りで過ごしました、とさ。

岡上の人口



岡上の世帯と人口の推移

和暦	西暦	岡上			川崎市全体(参考)			データ出典
		世帯	人口	世帯人数	世帯	人口	世帯人数	
明治30年	1897	65	441	6.78	7,831	50,370	6.43	戸籍人口による年末の数字
明治33年	1900	66	445	6.74	8,024	53,563	6.68	戸籍人口による年末の数字
明治38年	1905	65	468	7.20	7,996	55,026	6.88	戸籍人口による年末の数字
明治43年	1910	64	469	7.33	8,576	59,801	6.97	戸籍人口による年末の数字
大正4年	1915	67	440	6.57	10,790	67,222	6.23	戸籍人口による年末の数字
大正9年	1920	70	443	6.33	15,918	87,786	5.51	戸籍人口による年末の数字
大正14年	1925	70	450	6.43	22,300	113,411	5.09	戸籍人口による年末の数字
昭和5年	1930	69	497	7.20	30,190	149,845	4.96	戸籍人口による年末の数字
昭和10年	1935	69	454	6.58	39,756	201,673	5.07	戸籍人口による年末の数字
昭和13年	1938	70	453	6.47	44,793	238,445	5.32	12月1日現在の市人口調査
昭和20年	1945				40,213	200,459	4.98	12月1日現在の市人口調査
昭和25年	1950				71,834	330,555	4.60	年末の配給人口
昭和29年	1954	87	555	6.38	98,859	427,807	4.33	年末の配給人口
昭和34年	1959	96	561	5.84	145,378	579,544	3.99	年末の配給人口
昭和40年	1965	305	1,202	3.94	235,791	854,866	3.63	10月1日現在 国勢調査
昭和45年	1970	569	1,856	3.26	295,225	956,816	3.24	4月1日現在 推計人口
昭和50年	1975	676	2,414	3.57	298,702	1,000,966	3.35	4月1日現在 推計人口
昭和55年	1980	1,186	3,719	3.14	334,965	1,041,286	3.11	4月1日現在 推計人口
昭和60年	1985	1,762	4,712	2.67	404,762	1,088,624	2.69	10月1日現在 国勢調査
平成2年	1990	2,319	5,486	2.37	466,084	1,173,603	2.52	10月1日現在 国勢調査
平成7年	1995	2,456	5,827	2.37	503,711	1,202,820	2.39	10月1日現在 国勢調査
平成12年	2000	2,786	6,388	2.29	543,088	1,249,905	2.30	10月1日現在 国勢調査
平成17年	2005	3,080	6,596	2.14	595,513	1,327,011	2.23	10月1日現在 国勢調査
平成22年	2010	3,256	6,909	2.12	669,129	1,411,487	2.11	年末の住民基本台帳登録人口
平成27年	2015	3,236	6,550	2.02	704,726	1,459,287	2.07	年末の住民基本台帳登録人口

(出典:川崎市HomePage 長期時系列データ他)

このグラフ・表を見ると、岡上の人口は昭和 30 年代前半まではほとんど変化がなく、その後急激に拡大してきたことが分かる。世帯当たりの人数も昭和初期の 7.20 人が、昭和後半から平成になると 2 人台となり、核家族化と単身世帯の増加が激しくなっている。

岡上の農業

岡上には縄文時代から人々が生活していた形跡があるが、歴史に残る資料を見ると、室町時代後期には谷戸の奥まで水田が作られており、江戸・明治・大正・昭和を経て現在の形に至っている。

江戸時代における石高は「大まかに 300 石」と言われており、「岡上村総計細見表」（明治 23 年）では 109 町 1 反 2 畝 14 歩（約 108.3 ヘクタール）、田畑計 59 町 6 反 4 畝 7 歩（約 59.3 ヘクタール、54.8%）となっている。現在の岡上の総面積は 144.0 ヘクタール、田が 2.3 ヘクタール、畑が 36.2 ヘクタールで、合計 38.5 ヘクタール（総面積の 26.7%）となっている（平成 23 年、川崎市「都市計画基礎調査土地利用分類面積」より）。

それでは岡上の農業の変遷を簡単に辿ってみよう。

江戸時代から始まった養蚕は、一時期どの農家でも生産を行った最大の事業であった。

岡上の生糸生産量は柿生村十か村の中でも群を抜いていたと言われている。

では養蚕以外の農業はどうであったのだろうか？

「新編武蔵風土記稿」には、岡上は「山林高低ありて水田少しく。用水は谷々より出る清水を引用ゆ。」とあり、良い土壌と水の割には耕作しづらい地形であった。

明治 21 年の「神奈川県都築郡地誌」には、岡上の農産物は「米・もち米・大麦・小麦・粟・稗・蕎麦・大豆・菜種・生糸・柿・炭・お茶」とあるが、野菜は自家消費程度ではなかったかと推定されている。

その後の大正時代は、「大根・牛蒡・甘藷・里芋・葱・人参・胡麻・瓜」等の野菜が作られ、昭和に入ってから養鶏が急速に進んだ。しかし都市化の波が押し寄せ住宅開発が進むと、養鶏も難しくなって営農団地作りへ向けた取り組みが始まった。終戦後イチゴの栽培も盛んに行われたが、連作障害や病気でこれも終焉を迎えた。

昭和 60 年 4 月の営農団地完成により、経営規模の拡大や機械化が可能となり、東京という大消費地への近さから多品種の野菜が栽培されるようになった。

一方果物では、柿生という地名で代表される甘柿の禅寺丸が代々栽培・出荷されてきたが、昭和 50 年頃には富有や次郎等の他品種に押されて市場からは姿を消してしまったが、現在は禅寺丸ワインの材料として細々と栽培が続いている。また、「伊豆」、「松本早生」、「前川早生」といった実の大きな柿が積極的に栽培されるほか、ブルーベリー等の新しい果物の栽培も盛んになってきている。

なお、野菜・果物とも農協（JAセレサ川崎農業協同組合）が開設した地産地消の直売場「セレサモス」へ出荷する農家が多くなっている。一部の農家では直売所を設けているところもある。



禅寺丸柿

岡上の橋と水車

1. 岡上の川

- (1) 鶴見川・・・岡上の北端、鶴川地区との境を西から東に流れている。川幅は7～8間（12～15m）だったが、昭和47年からの改修により曲がりが減り川幅も3～4倍になった。鶴見川を利用した水運は、中世や江戸時代には重要な輸送手段であった。なお、現在の岡上地区の北端の線が古い鶴見川の流路だったと想定される（12ページ参照）。
- (2) 4つの堀・・・岡上にある4つの谷戸（川井田谷戸、自性寺谷戸、池ノ谷戸、新田谷戸）の湧水が4つの堀（川井田堀、梨の木堀、池の谷堀、下田川）になり南から北に流れて鶴見川に注いでいる。岡上ではこの湧水を利用し、昔から棚田や畑を作ってきた。

2. 岡上の橋

現在、岡上地区の鶴見川には、西から新川井田橋、川井田下橋（鶴見川の旧流路）、大正橋、川井田人道橋（人専用橋）、睦橋（町田市域）、本村橋、岡上跨線橋、宝殿橋、岡上橋がある。真光寺川に川内橋が、梨の木堀に五反田橋がある。



名称	江戸	明治	大正・昭和(戦前)	昭和(戦後)	平成
新川井田橋	-----	-----	-----	昭和62年コンクリ橋架橋	⇒
川井田下橋	-----	-----	-----	昭和53年コンクリ橋架橋	⇒
大正橋	-----	一本橋	大正時代板橋架橋 昭和16年再架橋	昭和32年コンクリ橋架橋	平成2年コンクリ橋再架橋
川井田人道橋	-----	-----	-----	-----	平成2年コンクリ橋架橋
睦橋	-----	-----	ぶらぶら橋	昭和32年以前 昭和61年再架橋	⇒
本村橋	元禄2年板橋架橋	⇒?	⇒? 昭和7年コンクリ橋架橋	昭和61年コンクリ橋再架橋	⇒
宝殿橋	-----	-----	-----	昭和60年コンクリ橋架橋	⇒
岡上橋	-----	板橋	⇒?	昭和35年コンクリ橋架橋 昭和58年コンクリ橋再架橋	⇒
川内橋	-----	-----	-----	昭和56年コンクリ橋架橋	⇒
五反田橋	土橋	⇒?	⇒?	昭和39年コンクリ橋架橋	⇒
岡上跨線橋	-----	-----	-----	昭和44年完成	⇒

- (1) 新川井田橋・・・昭和 62 (1987) 年 5 月、鶴見川の改修工事に伴い新設された。
- (2) 川井田下橋・・・昭和 53 (1978) 年 3 月に新設。架設前は近所の人々は小田急線の線路の上を歩いて渡っていたという。

- (3) 大正橋・・・①当初は丸太を 2～4 本並べただけの一本橋で、森水車へ挽き物に行くのに使った。
 ②大正時代に幅 2m の板橋 (丸太の上に泥を被せていた) になり、低い欄干があり、リヤカー、手車が通行できるようになった。
 ③昭和 16 (1941) 年に洪水で流され、架け直された。
 ④昭和 32 (1957) 年にコンクリート製になった。
 ⑤平成 2 (1990) 年 8 月に現在の橋に架け替えられた。



昭和初期の頃の大正橋 (梶晴夫氏画)

- (4) 川井田人道橋・・・平成 2 (1990) 年 9 月に、鶴見川の河川改修工事に合わせ、鶴川駅への道として架けられた。但し、車を通すことは鶴川地区の反対があり人専用の橋となった。
- (5) 睦橋 (町田市)・・・①以前は「ぶらぶら橋」があった (橋は丸太 4 本を番線か麻縄かで縛ったもので、小さいときは渡るのが怖く四つん這いで渡った)。
 ②ぶらぶら橋がなくなり、その少し下流に睦橋ができた (昭和 32 (1957) 年以前)。
 ③昭和 61 (1986) 年 3 月、鶴見川の河川改修に伴い架け直された。

- (6) 本村橋・・・①「元禄 2 (1689) 年、本村橋を鶴見川に架設する。長 8 間」との資料があるとのこと。『郷土岡上』
 ②昭和 7 (1932) 年以前に木の橋があった (橋のたもとに梶水車があったので「車ん橋」と呼ばれた)。
 ③昭和 7 (1932) 年、岡上の道路改修に伴い鶴見川に架かる最初のコンクリート橋になった。
 ④昭和 61 (1986) 年 3 月に鶴見川の河川改修に伴い現在の橋に架け替えられた。



昭和初期の頃の本村橋 (梶晴夫氏画)

- (7) 宝殿橋・・・昭和 60 (1985) 年 3 月に鶴見川の河川改修に伴い架けられた。

- (8) 岡上橋・・・①元は幅 2m の木橋で自動車は通行できなかった (地元では「一本橋」と呼んだ)。
 ②昭和 35 (1960) 年に道路改修に伴いコンクリート橋になった。
 ③昭和 58 (1983) 年 12 月、河川改修に伴い現在の橋に架け替えられた。



昭和初期の頃の岡上橋 (梶晴夫氏画)

- (9) 川内橋・・・真光川の改修に伴い昭和 56 (1981) 年 3 月に架けられた。

- (10) 五反田橋・・・①以前から土橋があった。地元では「宮の下の橋」と呼んだ (剣神社の下の橋の意)。
 ②川井田道路拡張に伴い、昭和 39 年 3 月、現在の橋に架け替えられた。

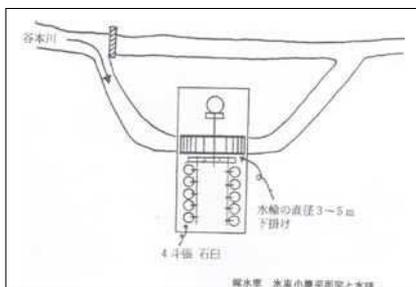
3. 岡上の水車

昭和初期頃まで本村橋の傍に**梶水車**、大正橋の傍に**森水車**があり、精米、精麦、製粉、蚕糸加工などの生活に利用されてきたが、モーターが使われるようになり、使われなくなった。

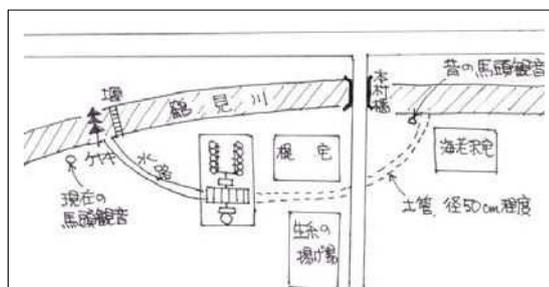
名称	所在	年代	水輪径	水掛方	石臼	挽臼	用途	その他
梶水車	岡上 265	江戸末期-昭和初め	3~5m	下掛式	10個	1個	営業	揚場併設
森水車	能ヶ谷 40	明治初期-昭和初め	9-10尺 (2.5~3m)	下掛式	2個	不明	営業	

(1) 梶水車・・・岡上 265、本村橋そば

- ①「江戸末期から営業用に営まれ、・・・梶水車は大正 5 年に岡上に株式会社梶合名会社を開き、精穀並びに白米を販売する仕事を始めた。水車は大正 13 年から電動による精米機が出現したので、昭和の初め頃にその姿を消す」昭和 63 年 3 月『川崎の水車』
- ② 岡上に残る「年貢皆済目録」で水車運上金を調べると、天保 8 (1837) 年に 125 文とあり、岡上の水車の営業はここまでは遡ることができる (望月一樹氏の講義、18 ページ参照)。
- ③ 梶晴夫氏、海老沢基晴氏によると、『川崎の水車』の図は、水車と石臼の位置が逆であり、水車からは径 50 cm 程の土管だった。水車の近くに生糸の揚げ場が昭和 15 年頃まであった。



『川崎の水車』掲載の図



今回、聞き取りで修正した図

- ④「梶さんの家は屋号を水車といい、水車の中心になっていた万力を家の前においている。家業が水に左右されるので水神祠をまつっている」『川崎の水車』
現在は梶春雄氏宅で屋号はクルマ(車)『屋号と家紋』。現在も万力、水神祠を保存している。

(2) 森水車 (勘車)・・・町田市能ヶ谷 40、大正橋そば

- ①「明治初期から営業され、昭和の初め頃まで使用されていた。営業用の水車として、精米・精麦を中心に使用されていたが、・・・後に動力に切り替えた。」『川崎の水車』
- ②「森勘之助が明治 33 (1900) 年 3 月に水車場を設置、昭和 16 (1941) 年 7 月の洪水で廃業。水車場の建物は昭和 20 (1945) 年 5 月の空襲で全焼した。」『つるみ川沿い歴史散歩』

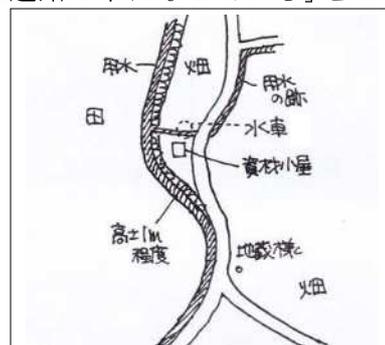
(3) 谷戸の水車・・・岡上 1186、自性寺谷戸のお地藏様そば

- ①「大日本帝国陸地測量部地図 (昭和 2 年修正)」に、自性寺谷戸に水車の記載がある。
- ② 鳥海輝治氏によると、「戦争中、お地藏様の近くの畑に資材小屋があったが、そこには昔、水車があったとの話を聞いたことがある、今は拡幅された道路の下になっている」とのこと。



大日本帝国陸地測量部(大正 6 年測図・昭和 2 年修正)地図

左の地図の赤○内が水車の記号



戦時中の資材倉庫付近見取り図(鳥海氏による)

(注) 郷土岡上の歴史・文化継承委員会及び岡上に親しむ会 (郷土誌会) の活動を基に作成した。

あしがき

岡上は全国でも数少ない「飛び地」です。その岡上において、昭和53年5月に柿生小学校岡上分校の跡地に建てられた麻生市民館岡上分館は、今日まで成人学級や市民自主事業など様々な社会教育事業を展開してまいりました。

その岡上に残された自然や貴重な歴史と文化を後世に継承すべく、郷土岡上の歴史・文化継承委員会との協働により「郷土岡上の歴史・文化継承事業」を実施してまいりましたが、当事業も3年目を迎え、集大成の年となりました。その間、公開講座や特別講座を行い、特に和光大学との公開講座では、各方面から多数の方が参加されました。

また、当事業のこれまでの講座・調査資料等は、当館図書室内の岡上郷土誌コーナーに保管されており、閲覧いただくことが可能となっておりますので、ぜひ御活用いただければと思っております。

最後に、以前から御協力してくださった「岡上に親しむ会(郷土誌会)」の皆様を始め、貴重な資料等を御提供いただいた皆様、郷土岡上の歴史・文化継承委員会の皆様方に感謝申し上げますとともに、史・資料を通して、これからも地域の活性化につながるような講座・企画の実施に向け、歩みを進めて行きたいと思っております。

平成28年3月

麻生市民館岡上分館長 中村一真

※ 本書の御利用にあたっては、次のことに御留意ください。

- ・ 本書に記載されている個人宅等には、許可無く立ち入れません。
- ・ 複製は禁止します。

「郷土岡上の歴史・文化継承事業 報告書」

編集 郷土岡上の歴史・文化継承委員会

協力 岡上に親しむ会（郷土誌会）
麻生市民館岡上分館

発行 郷土岡上の歴史・文化継承委員会
麻生市民館岡上分館

発行日 平成 28 年 3 月

連絡先 岡上分館 044-988-0268

平成 27 年度麻生区地域課題対応事業・郷土岡上の歴史・文化継承事業

